（資料１）初任者研修（モデル研修）の検討と整理

資料１−１　モデル研修実施経過

資料１−２　モデル研修参加者における事前・事後評価

資料１−３　モデル研修参加者・インタビュー調査結果・考察

資料１−４　モデル研修の振り返りおよび考察

資料１−１　モデル研修実施経過

研究協力者：藤川　雄一

概要

今年度は、昨（平成２８）年度本研究において開発した相談支援従事者養成研修（以下法定研修という）初任者研修のカリキュラムについて再検討を行い、一部改変を加えた。その上で、標準となるシラバスを開発し、都道府県における法定研修企画運営担当者を対象としたモデル研修を実施した。

開発したカリキュラムは７日間での実施を想定した内容であるが、今回は４日間に縮約して実施した。

１．目的

障害福祉分野における相談支援においては、障害者自立支援法施行以前の「障害者ケアマネジメント従事者養成研修」から２０年近い歴史をもつ研修として「障害者相談支援従事者養成研修」の「初任者研修」が実施されてきた。

そのため、昨年度の本研究においては、これまでの各都道府県の知見等を集約し、現行研修の課題を整理し、その改善策を検討する形で初任者研修のカリキュラム開発を行った。

今年度においては、カリキュラムのさらなる改訂と実際の研修実施に際して必要となるシラバスの作成を行った上で、従来研修からの移行の視点を持ち、モデル研修を実施することを目的とした。

具体的には、都道府県における研修企画実施担当実務者を対象としたモデル研修を実施し、従来研修をどのような視点や方法で変更するかを伝え、インタビューを行うことで、変更されたカリキュラムでの研修実施上のポイントを整理することを目的とした。

２．カリキュラムおよびシラバスの開発

２．１ カリキュラムの見直し

昨年度は、相談支援専門員として業務に従事するにあたり必要な事項を整理する形でカリキュラム開発を行った。今年度は、それをさらに詳細に検討し、７日間での研修を実施する実務上の要素も勘案する視点でカリキュラムの見直しを行った。具体的な前年度との変更箇所とその理由は以下のとおりである。

① 講義部分における科目と時間の振り分けを変更

ストーリー性（流れ）をもって講義ができ、かつ１日６時間（午前２時間半〜３時間、午後３時間〜３時間半）の中で組み立てることができる講義科目と内容となるよう前年度案より見直しを行った。また、概要を大づかみなイメージ的把握することから開始し、次第にディテール（厳密性のある知識・技法）へ、抽象から具体へと学びが進むよう、見直しを行った。

また、相談支援専門員は、社会福祉士や精神保健福祉士等のソーシャルワーク関連基礎資格を必ずしも前提としないことから、実務的あるいはテクニカルな側面だけでなく、目的や価値等を講義および演習が連動して伝えることができるように一部を改変した。その基本的

な構造は下の図１に示すとおりである。

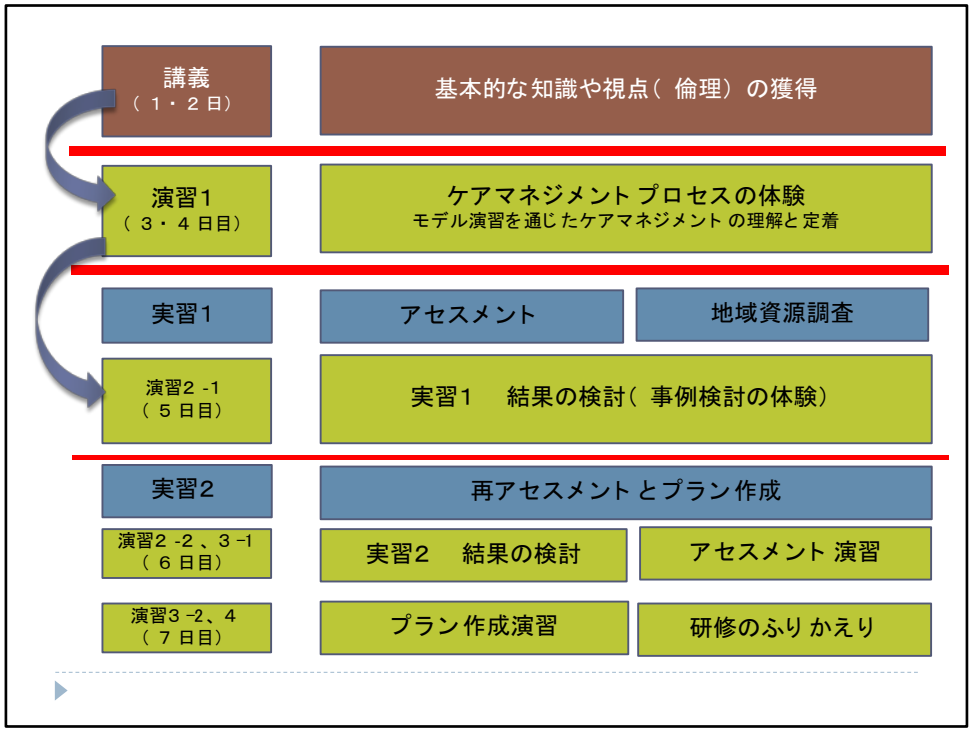

図１　初任者研修・新カリキュラムの構造イメージ

② 学びのナビゲーションを導入

相談支援専門員としての専門性向上には、ＯＪＴや off-JT を取り混ぜた研鑽の継続が必要である。この、研鑽とその継続の必要性について、昨年度はカリキュラムとしては明示していなかったが、これを取り入れることとした。演習の受講ガイダンスとして取り入れたほか、気づきを持つ機会の重要性を体感できるよう、講義や演習の要所に振り返りの時間を確保したほか、スーパービジョンについてもカリキュラムの中に導入することとした。

③ 地域への視点を導入

同時に行われているサービス管理責任者等研修の見直し経過を受け、本研修の講義部分が従来通りサービス管理責任者等研修でも同一カリキュラムで実施される方向性であることを勘案した。具体的には、従来のカリキュラムでは相談支援従事者のカリキュラムのみに設定されていた（自立支援）協議会を核としたいわゆる「地域づくり」（ソーシャルアクション）の内容を取り扱う講義を設けた。また、相談支援の在り方検討会の答申にもある「地域を基盤としたソーシャルワーク」が研修の根底をなすよう、内容の微調整を行った。

２．２　シラバスの開発

また、今年度はカリキュラムをさらに詳細に検討し、次々頁からに示すような研修シラバスの作成を行った。シラバスを作成するにあたり、昨年度は概略的に示した研修実施上の留意点をさらに詳細に明示した。

ポイントとした点を以下に挙げるが、同時に特に留意が必要なのは、本カリキュラムを効果的に実施するためには、研修全体をデザインするチームが必要な点である。このチームには、自治体担当者や研修実施機関の担当者だけでなく、学識経験者や各都道府県の相談支援体制整備の中核となる実務者（基幹相談支援センターの中核となる主任相談支援専門員やその職能団体である都道府県相談支援専門員協会のメンバー）の参加が必須である。

そのためのチーム作りや予算編成も含めた検討は、複数年かけて行われ、次第に土壌が醸成されてゆくものと想定される。

① 講義間や講義と演習の役割・連動を明確化

従来の研修では、講義と講義のつながりがなく実施されていたり、講義と演習があたかも全く別個の研修のように実施されてきた都道府県が多くあることが指摘されていることは、昨年度報告書において整理したとおりである。そのため、今回、それぞれの講義のもつ役割や取り扱う内容、講義と演習の連動についてを明確に示すこととした。

具体的には、研修実施の留意点として、その重要性を明記したほか、それぞれの科目の内容、取り扱いや研修実施上の視点を示したところである（標準シラバス内の研修の進め方・留意点を参照)。

② 想定される講義や演習の担い手を明確化

講義における知識や価値のわかりやすい教授、演習における実際の業務場面に即した実践的な研修など、それぞれの教育方法によって効果的な担い手は異なる。そのため、主な担い手についてもシラバスに明記した。

特に、演習にその地域の中核となる実践者を配置することの重要性には留意すべきであるが、以下にその理由を述べる。

本研究の各所で触れられているとおり、相談支援専門員の質の向上には、ＯＪＴが必須であり、今後は基幹相談支援センターの中核となる主任相談支援専門員が担い手となり、実践されてゆく環境となることが想定される。

ＯＪＴやＯＪＴの一環としてのスーパービジョンが「普通にある」業務環境が実現した時、初任者研修における実践例を取り扱う演習は、現実と切り離された off-JT としてあるのではなく、その後の実践の入口として、これから現場で使う方法論を体感する役割を担う科目となる。そのことを想定し、本シラバスは作成されている。

③ 学びの環境の明確化

現代の学習理論においては知識伝達型ではなく、アクティブラーニング等参加学習型の学びの環境が有効な場合が多いとされ、職業教育においてもそのことが言われている。

この観点から、シラバスにおいて、受講生が能動的に参加できる学習環境デザインの採用を研修の企画立案において留意するよう明記し、グループワークによる参加型の科目を多く採用、その運営方法についても標準的なありかたを示すなどの工夫を行った。

２．３ 演習プログラムや様式例の開発

従来の初任者研修では、ケアマネジメントツールや演習に活用する様式については明確に示

されておらず、実質的にケアガイドラインに示された様式ややサービス等利用計画の厚生労働省の参考様式を活用することが通例であった。

本研究では、詳細な研修方法を示すことをコンセプトとしたため、プログラム例や様式例を改めて開発することとした。その際の視点は以下のとおりである。

演習プログラムについて

① 演習の展開については詳細を記したプログラム案(進行表)の例を提案することとした。

② 演習用教材についても、教材例を提案することとした。

（指導者用教材を併せて提示することとしているが、モデル研修では、簡易的に研修の視点を入れた教材を使用した。）

ケアマネジメントおよび演習様式について

① サービス等利用計画作成事務に係る様式については、厚生労働省の示す参考様式が全国的に普及しており、この様式を実務上使ってゆくことが標準と想定されることから、既存の様式を活用することとした。

② アセスメント様式については、ケアガイドラインに示された項目を標準として使っている都道府県が多いが、現行様式は医学モデルに視点が偏りがちなきらいがあるなど、課題があることから、この様式を改訂することとした。

③ 以下の様式については、今回新たに提案することとした。

・ストレングスの整理票

・ニーズ整理票

・社会資源活用シート

相談支援従事者養成研修　初任者研修・新カリキュラム（標準シラバス）

獲得目標	① ソーシャルワークとしての障害者相談支援の価値と知識を理解する。 ② 基本相談支援の理論と実際を理解し、障害者ケアマネジメントのスキルを獲得する。 ③ 計画相談支援の実施に関する実務を理解し、一連の業務ができる。 ④ 地域づくりとその核となる（自立支援）協議会の役割と機能を理解する。

研修の進め方 留意点	・以下のサイクルに則り展開し、講義と演習の連動を意識した研修を企画する。 事前学習→講義→演習（モデル演習）→課題（実習）→演習（実習課題に基づく） ・講義と演習を同一年度に一体的に受講することを前提として開発されたカリキュラムである。 ・講義は学識経験者等、演習は都道府県の中核となる実践者が担うことを前提として開発されたカリキュラムである。 ・講義において、内容の重複する箇所があるが、どの講義で重点的に取り扱うかを企画者が十分検討する。 同一の内容を複数の講義で重点的に取り扱うことは避ける。ただし、講義と演習の連動における重複はこの限りでない。） ・講義内容は本表に掲載した内容を取り扱うこととし、それ以外の内容は① 既習を前提とする基礎的内容」あるいは② 発展的学習内容」であることを明確にする。 本研修で必ず習得すべき内容と前提となる既習事項、発展的事項を明示する）。 ・演習は（導入・まとめの）講義とワークを交互に実施するなど冗長にならないよう留意し、学びのポイントを明示する。 ・演習は、受講生が主体的に参加し、学ぶことのできる環境で実施する（原則として、グループワークを多用する。）。 ・演習時は、都道府県（各地域）における相談支援の中核となる現任研修修了者以上の実践者（主任相談支援専門員を想定）を演習講師とし、グループに1名配置する。 ・演習における標準的なグループ人数は6名とする。

カリキュラム

事前学習	基礎知識・関連知識	－	○障害者総合支援法及び障害福祉関連制度、各障害の特性について　（テキストによる事前学習） ○効果測定：学習後自己評価表を研修開始時に提出　※効果測定の方法や評価・判定方法については別途要検討

		区分	科目名	時間	項目	内容
共通講義	1日目	講義１	オリエンテーション 研修受講ガイダンス	1h	本研修の獲得目標 プログラム概要	
					人材育成、職業教育、成人学習理論	・相談支援の目的 ・継続的な学びの必要性 ・人材育成体系の中での本研修の位置 ・基礎的な成人学習理論 ・実地指導やスーパービジョンの必要性
		講義２	相談支援概論	5h	① 相談支援の目的 （1.5h）	・障害者の地域生活とその支援 ・障害者の自立と尊厳の確保、社会参加 ・自己決定（意思決定）への支援・権利擁護、エンパワメント、リカバリー ・障害のある人を含めた誰もが暮らすことのできる地域づくり
					② 相談支援の基本的視点 （2.5h）	・基本的視点 ① 個別性の重視、② 生活者視点、QOLの重視、③ 本人主体、本人中心 ④ 自己決定（意思決定）への支援、⑤ エンパワメントの視点、ストレングスへの着目、 ⑥ 権利擁護 ※以下の項目については特に重点的に触れる。 ・医学モデルから社会モデル、生活モデルへ ・生活者視点と利用者の共感的理解 ・意思決定支援 ・意思決定支援とは ・意思決定支援の原則・基本的視点 ・本人の意思と選好を基とする意思決定とその支援 ・最善の利益原則と代理代行決定 ・ストレングス視点と本人のストレングスを活かした支援
					③ 相談援助技術 （1h）	・地域を基盤としたソーシャルワーク（としての相談支援） ・ソーシャルワークにおけるミクロ、メゾ、マクロの視点
	2日目	講義３	障害者総合支援法及び児童福祉法の理念・現状とサービス提供プロセス	1.5h	日本の障害福祉の歴史	・障害福祉制度の変遷
					障害者総合支援法等による障害児者の自立と共生社会の理念	
					障害福祉サービス及び児童福祉サービスの制度	・自立支援給付、地域生活支援事業、自立支援医療、補装具、利用者負担、障害福祉計画、不服申し立て、障害児通所支援、障害児入所支援、介護保険との関係等について ・法にもとづく相談支援事業 ・障害福祉サービス（障害児支援）の提供プロセス ・障害者の権利を護るための法律及び関連制度の関係性および概要 ※障害者の権利に関する条約、障害者差別解消法、障害者虐待防止法、成年後見制度や日常生活自立支援事業等
		講義４	障害者総合支援法及び児童福祉法のにおける相談支援（サービス提供）の基本	1.5h		・相談支援事業の成り立ち、相談支援の体系 ・各指定相談支援事業の基準に基づく相談支援専門員としての責務及び業務 ・指定障害福祉サービス事業等の基準に基づくサービス管理責任者等としての責務及び業務 ・相談支援専門員とサービス管理責任者等との連携のあり方とその重要性 ・基本相談支援を基盤とした計画相談支援のプロセス ・サービス等利用計画（障害児支援利用計画と個別支援計画の関係 ・「障害者虐待防止の手引き」等を活用した虐待防止
		講義５	相談支援におけるケアマネジメント技法とそのプロセス	1.5h	ケアマネジメントとそのプロセス	・ケアマネジメントの歴史と目的 ・ケアマネジメントのプロセスとその留意点 ・社会資源の捉え方とアクセス方法、資源開発
					基本的視点	・相談支援の基本的視点（再掲：講義２を復習的に簡単に触れる。）
					多職種連携とチーム支援	・多職種連携とその重要性 ・チームアプローチの留意点 ・相談支援専門員とサービス管理責任者等との連携 ・個別支援計画等とサービス等利用計画等の連動
		講義６	相談支援における地域への視点	1.5h	地域における相談支援体制	・各指定相談支援事業、地域生活支援事業による相談支援事業（市町村相談支援事業、基幹相談支援センター）の各役割と機能、相互の連携並びに重層的な体制
					地域課題の抽出と共有	（発展的内容であるが、初任者研修でも簡単に触れる）
					地域診断、地域資源の把握	（発展的内容であるが、初任者研修でも簡単に触れる）
					地域づくり、資源の改善・開発	・ネットワーク構築（メゾネットワークの充実） ・官民の協働と協議会
					研修のまとめ	・地域を基盤としたソーシャルワーク ・2日間のまとめと演習にむけて

		区分	科目名	時間	項目	内容
演習	1日目	演習 1	演習 相談支援におけるケアマネジメントに必要な視点と技術 （ケアマネジメントおよびサービス等利用計画作成に関するプロセス体験演習）	12h	インテーク・アセスメント （6h）	本人中心の支援、関係性の構築、本人の「人となり」の理解） 1）ロールプレイやモデル事例を基にした模擬面接等によるインテークと関係性構築 2）情報の収集と整理 3）本人像の把握とニーズの整理 ※グループ討議にストレングスやエンパワメント、権利擁護や意思決定支援の視点を盛り込むよう配慮。
	2日目				ゴール設定とプランニング （3h）	・アセスメントにより明確化したニーズへの支援・地域資源へのアクセスと活用の検討 ・サービス等利用計画の作成。 ・模擬サービス担当者会議等によるサービス管理責任者を中心とした他機関等との連携体験
					モニタリング・ ターミネーション （2h）	・支援への評価、利用者満足度、新たなニーズの出現、ゴールの変化、他機関連携の状況確認 ・支援の終結 ・再アセスメント、再プランニング
					振り返り 実習ガイダンス （1h）	・演習 1の振り返り ・インターバル中の課題実施及び提出に関してのガイダンス
		実習 1	インターバル① 実習1（事前課題）実施のため、 研修に一定期間の間隔を設定。	目安 1ヶ月	課題① 相談支援プロセスの実践①	・自らの関わる障害当事者の中へインテークからアセスメントを実施する（再確認を含む）。 ・都道府県もしくは指定研修機関が指定する書式等を作成し提出。 ※今後従事予定で選定困難な場合、基幹相談支援センター等の紹介により、既存の相談支援事業所等の指導・監督のもと実習することも可とする。
					課題② 地域資源に関する情報収集	・研修修了後に就業予定の相談支援事業所等が所在する地域（市町村・障害保健福祉圏域等）において、地域資源に関する情報を収集（公的機関、障害福祉サービス提供事業所、自立支援）協議会など）。 ・都道府県もしくは指定研修機関が指定する地域資源整理票を作成し提出。 ※同一地域に複数の受講生がいることが想定されるため、地域づくりや研修効率化のためにも、基幹相談支援センター等が中心となり、協議会等で実習時の対応を検討することが必要になると想定される。
	3日目	演習2-1	実践研究 1 ＜実習課題に基づく アセスメントの検討＞	6h	アセスメント結果の検討 （スーパービジョン・事例検討の体験）	・事前課題で作成した事例情報、アセスメント結果、支援方針について、グループ毎に検討を実施 ・手法：構造化されたグループスーパービジョン・事例検討を想定。 ・導入講義45分、グループ演習270分、演習ふりかえり45分 ※1名あたり45分。 報告 5分 → 本人像の共有 5分 → 質問 10分 → ブレインストーミング 15分 → 応答3分 → 休憩・転換：7分） ※休憩は数人毎にまとめてとること。
		実習 2	インターバル② 実習2実施のため、 研修に一定期間の間隔を設定。	目安 1ヶ月	課題③ 相談支援プロセスの実践②	・演習2-1での他者の助言・自らの気づきをもとに、再度アセスメントを実施するとともに、サービス等利用計画（案）の作成を行う。
	4日目	演習2-2	実践研究 2 ＜実習課題に基づく再アセスメントおよび支援方針（計画案）の報告と共有＞	3h	再アセスメント結果および支援方針（計画案）の報告・共有 （ケースレビューの体験）	・実習②で実施した再アセスメントおよび作成したサービス等利用計画（案）について、グループに報告・共有。 ※1名あたり25分を想定。 報告：5分 → 質問：5分 → ブレインストーミング：10分 → 応答：3分、休憩・転換 2分） ※休憩は全員分をまとめて10分挟む。
		演習3-1	実践研究 3 ＜ケアマネジメントプロセスの定着演習＞	3h	ケアマネジメントプロセスの定着演習（前半） アセスメント	・演習2-2で共有された実践例より1つを選定。 ・グループによる再検討（ニーズ整理）により、アセスメントを深める。
	5日目	演習3-2	実践研究 4 ＜ケアマネジメントプロセスの定着演習＞	4h	ケアマネジメントプロセスの定着演習（後半） プランニング	・演習3-1で明確になったニーズへの支援の検討、プランの作成。 ・事例提出者の地域を想定して具体的な地域資源を入れた支援計画を検討・作成 1）自由な資源のアイディア出し（60分） 2）サービス等利用計画作成（60分） 3）ふりかえりと地域づくり・協議会（60分）
		演習 4	振り返り	2h	演習および研修全体の振り返り	・導入講義 ・個人での気づきの整理 ・グループおよび全体での討議および共有 ・まとめ講義

図２　初任者研修　標準シラバス

３．モデル研修の実施

３．１ 実施概要

２で開発したカリキュラムおよびシラバスに基づき、次頁のとおりモデル研修を実施した。

日　程：４日間（2018 年 11 月 18 日／11 月 19 日／12 月２日／12 月 16 日）
各日１０時～１６時まで（最終日は１５時３０分まで）

場　所：筑波大学東京キャンパス（東京都文京区大塚３−２９−１）

対象者：従来の相談支援従事者養成研修の中核的企画者・担当者
（神奈川県および埼玉県より計１６名）

内　容：開発したカリキュラムを縮約し、研修実施。
実施日毎に研修終了後にグループインタビュー。

ねらい：① 相談支援の熟達者、研修の企画運営者に対し本研修を実施することで、カリキュラムや研修実施上の課題点を指導者側の観点から抽出する。
② 相談支援の熟達者、研修の企画運営者に対し本研修を実施することで、各都道府県の研修の企画運営者にカリキュラムの変更を伝達してゆく上での課題を抽出する。

３．２ 実施内容について

以下に、実際のカリキュラムおよびシラバスを縮約した点を示す。なお、モデル研修の実施プログラムは次頁のとおりである。

① 講義（２日間）
今回の対象が研修の企画者であることを考慮し、実際の講義を行うのではなく、従来カリキュラムとの変更点やその意図、重点的に取り扱う項目について等の教授する際のポイントについての説明とした。

② 演習１については、本来の時間および内容で実施した。

③ 実習１については､本来の内容を期間を想定の半分(２週間)のインターバルで実施した。

④ 演習２‐１、演習２‐２で本来１．５日の内容であるが、実践例の検討数を減らし、１日で実施した（実際には、受講生全員の実践例を取り扱うこととなる)。

⑤ 演習３‐１、演習３‐２、演習４で本来１．５日の内容であるが、演習３のグループワークの時間を短縮し、１日で実施した。また演習４の振り返りについたは、グループインタビューと重複するため、グループワークは実施せず、振り返り講義のみを実施した。

● 1日目 【1月18日[土]）

時間		科目	概要	担当
10:10～11:00	50	[共通講義] 研修体系と初任者研修	1) 相談支援従事者養成研修の全体像 2) 初任者研修の位置づけと獲得目標 3) 「共通講義」の体系と内容（概説）	藤川
11:00～11:10	10	休憩		
11:10～12:00	50	[演習1] ケアマネジメント技術演習	アセスメント(1) 関係性構築とインテークアセスメント	冨岡 藤川
12:00～13:00	60	昼休憩		
13:00～13:30	30	[演習1] ケアマネジメント技術演習	アセスメント(2) 情報収集	冨岡 藤川
13:30～16:00	150	[演習1] ケアマネジメント技術演習	アセスメント(3) ニーズ整理	冨岡 藤川

● 2日目 【1月19日[日]）

時間		科目	概要	担当
10:10～11:00	50	[演習1] ケアマネジメント技術演習	プランニング(1) 自由な発想に基づくプランニング	冨岡 藤川
11:00～11:10	10	休憩		
11:10～12:00	50	[演習1] ケアマネジメント技術演習	プランニング(2) サービス等利用計画作成	冨岡 藤川
12:00～13:00	60	昼休憩		
13:00～13:50	50	[演習1] ケアマネジメント技術演習	プランニング(3) サービス担当者会議	冨岡 藤川
13:50～14:00	10	休憩		
14:00～14:30	30	[演習1] ケアマネジメント技術演習	モニタリング(1) 本人とのモニタリング	冨岡 藤川
14:30～15:20	50	[演習1] ケアマネジメント技術演習	モニタリング(2) サービス担当者会議	冨岡 藤川
15:20～15:30	10	休憩		
15:30～16:00	30	[演習1] ケアマネジメント技術演習	演習のふりかえり	藤川

● 3日目 【2月2日[土]）

時間		科目	概要	担当
10:10～10:40	30	[演習2-1] 課題研究	事例検討の体験（アセスメント） 導入	藤川
10:40～10:50	10	休憩		
10:50～12:00	70	[演習2-1] 課題研究	事例検討の体験（アセスメント） 演習	鈴木 冨岡 藤川
12:00～13:00	60	昼休憩		
13:00～14:40	100	[演習2-1] 課題研究	事例検討の体験（アセスメント） 演習	鈴木 冨岡 藤川
14:40～15:00	20	休憩		
15:00～15:20	20	[演習2-1] 課題研究	事例検討の体験（アセスメント） 演習ふりかえり	藤川
15:20～16:00	40	[演習2-2] 課題研究②	ケースレビューの体験（再アセスメントとプランニング） 演習	鈴木 冨岡 藤川

● 4日目 【2月16日[土]）

時間		科目	概要	担当
10:10～11:40	90	[演習3-1] 課題研究③	(再)アセスメント・プランニング演習 グループワークによる再ニーズ整理	鈴木 冨岡 藤川
11:40～12:40	60	昼休憩		
12:40～13:10	30	[演習3-1] 課題研究③	(再)アセスメント・プランニング演習 自由なアイディア出し	鈴木 冨岡 藤川
13:10～13:50	30	[演習3-1] 課題研究③	(再)アセスメント・プランニング演習 サービス等利用計画作成	
13:50～14:00	10	休憩		
14:00～15:00	60	[演習3-1] 課題研究③	(再)アセスメント・プランニング演習 ふりかえりと地域づくり・協議会	鈴木 冨岡 藤川
15:00～15:30	30	[演習4]	演習ふりかえり	藤川
		[演習5]	演習全体のふりかえり	

図３　モデル研修プログラム

資料１−２　モデル研修参加者における事前・事後評価

分担研究者：大村　美保

１．目的

相談支援専門員を中心に障害者相談支援事業に関する専門的な知見を有する者による、相談支援従事者初任者研修のモデル研修の受講体験を行った。本研究は、研修内容の修正・確定に資することを目的に、研修の効果の測定及び研修内容の妥当性を検討してプログラム評価を行うため、研修受講の前後における自身の習熟度、及び研修内容についての評価・改善点を質問紙調査により把握し分析した。

２．対象

埼玉県相談支援専門員協会及び神奈川県相談支援専門員協会に所属あるいは関与する相談支援専門員等延べ 57 名を対象とした。

３．方法

初任者研修のモデル研修（４日間）の参加者延べ 57 名に対して質問紙調査を行い、講習受講前と受講後それぞれの自身の習熟度の 5 段階での自己評価、及び講習・演習の内容資料に関する 4 段階での評価を行った。質問紙調査は、研修の日程に沿って 4 日間すべての日程で行い、それぞれの参加者に受講前 5 分間程度、及び受講後 10 分間程度を目途に記入を依頼した。調査票情報はデータセットに入力し、受講前と受講後の平均値で t 検定を行い、講義・演習の内容と資料については一元配置分散分析を行った。

４．結果

（１）受講前後での習熟度に関する自己評価の比較

１日目講義「研修体系と初任者研修」の受講前の平均値は 3.22、受講後の平均値は 3.50 で、受講後は平均 0.28 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5%で両側検定の t 検定を行ったところ、$t(8)=1.41,\ p=0.19>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は認められなかった。講義「演習 1」の受講前の平均値は 3.36、受講後の平均値は 3.45 で、受講後は平均 0.09 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5%で両側検定の t 検定を行ったところ、$t(10)=0.56,\ p=0.59>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は認められなかった。

２日目講義「ケアマネジメント技術演習」の受講前の平均値は 3.69、受講後の平均値は 3.78 で、受講後は平均 0.09 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5%で両側検定の t 検定を行ったところ、$t(12)=0.55,\ p=0.59>.01$ であり、研修の前後の平均値に有意差は認められなかった。

３日目講義「アセスメント」の受講前の平均値は 3.62、受講後の平均値は 3.75 で、受講後

は平均 0.13 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5%で両側検定の t 検定を行ったところ、t(12)=0.99, p=0.34>.01 であり、研修の前後の平均値に有意差は認められなかった。

４日目講義「アセスメント・プランニング」の受講前の平均値は 3.53、受講後の平均値は 3.79 で、受講後は平均 0.26 ポイント上昇した。平均値の差について有意水準 5%で両側検定の t 検定を行ったところ、t(16)=2.62, p=0.02>.01 であり、研修の前後の平均値に有意差は認められなかった。

（２）各講義・演習に対する評価

１日目「研修体系と初任者研修」の内容等について、評価得点の平均値はそれぞれ「研修体系と初任者研修」3、「アセスメント 1」3、「アセスメント２」3.1、「アセスメント３」3.2 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった（F(3,47)=1.24, p=0.30>.01）。１日目「研修体系と初任者研修」の資料等について、評価得点の平均値はそれぞれ「研修体系と初任者研修」3、「アセスメント 1」3、「アセスメント２」3.1、「アセスメント３」3 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった（F(3,38)=0.26, p=0.85>.01）。

２日目「ケアマネジメント技術演習」の内容等について、評価得点の平均値はそれぞれ「プランニング１」3、「プランニング２」3、「プランニング３」3.1、「モニタリング１」3.2、「モニタリング２」3 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった（F(4,54)=1.51., p=0.20>.01）。２日目「ケアマネジメント技術演習」の資料等について、評価得点の平均値はそれぞれ「プランニング１」2.6、「プランニング２」3、「プランニング３」3、「モニタリング１」3、「モニタリング２」2.8 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった（F(4,52)=3.56, p=0.012>.01）。

３日目「アセスメント」の内容等について、評価得点の平均値はそれぞれ「2-1 導入」3.2、「2-1　1 事例」3、「2-1　2 事例」3.1、「2-1　振り返り」3.1、「演習 2-2」3 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった（F(4,51)=0.56, p=0.70>.01）。３日目「アセスメント」の資料等について、評価得点の平均値はそれぞれ「2-1 導入」3、「2-1　1 事例」3、「2-1　2 事例」3、「2-1　振り返り」3、「演習 2-2」2.9 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった（F(4,46)=1.03, p=0.40>.01）。

４日目「アセスメント・プランニング」の内容等について、評価得点の平均値はそれぞれ「演習 3-1　グループワークによる再ニーズ整理」2.7、「演習 3-1　自由なアイデア出し」2.9、「演習 3-1　サービス等利用計画作成」2.9、「演習 3-1　ふりかえりと地域づくり・協議会」2.7、「演習４　演習ふりかえり」3、「演習５　演習全体ふりかえり」3 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった

（F(5,54)=0.92., p=0.48>.01）。４日目「アセスメント・プランニング」の資料等について、評価得点の平均値はそれぞれ「演習 3-1　グループワークによる再ニーズ整理」2.7、「演習 3-1　自由なアイデア出し」2.9、「演習 3-1　サービス等利用計画作成」2.8、「演習 3-1　ふりかえりと地域づくり・協議会」2.9、「演習４　演習ふりかえり」3、「演習５　演習全体ふりかえり」3 であった。評価得点の平均に差があるか一元配置分散分析を行ったところ、有意差が検出されなかった（F(5,50)=0.78., p=0.56>.01）。

５．考察

（１）受講前後での習熟度に関する自己評価の比較

受講前と受講後の習熟度の自己評価の比較では、１日目講義「研修体系と初任者研修」、講義「演習 1」、２日目講義「ケアマネジメント技術演習」、３日目講義「アセスメント」、４日目講義「アセスメント・プランニング」とも受講前の平均値は 3.22～3.69、受講後の平均値は 3.45～3.79 と、受講前・受講後ともに習熟度の自己評価は高かった。また、受講前後での平均値に有意差は認められなかったものの、いずれの講義においても平均で 0.09～0.28 ポイント上昇していた。これら習熟度の自己評価の結果は、今回のモデル研修は相談支援専門員を中心に障害者相談支援事業に関する専門的な知見を有する者を対象に行われたことを勘案すれば、1）参加者は初任者研修の内容に受講前段階から相当に習熟しており、２）各講義はそうした熟練した参加者であってもさらに内省と習熟を促すことのできる内容を伴っていたと理解できる。

（２）各講義・演習に対する評価

１日目～４日目の各講義・演習の内容に関する評価得点は平均値 2.7～3.2、資料に関する評価得点は平均値 2.6～3.0 といずれも比較的高く、一元配置分散分析の結果、各日の講義・演習間で評価得点の平均に有意差は認められなかったことから、モデル研修の内容・資料ともに全体をとおして概ね妥当であったと評価できる。

このうち、比較的高い評価得点であった講義・演習の内容は、1 日目「研修体系と初任者研修」のうち「アセスメント３」3.2、２日目「ケアマネジメント技術演習」のうち「モニタリング１」3.2、３日目「アセスメント」のうち「2-1 導入」3.2 であった。これらは現行の初任者研修の内容と概ね一致し、その内容が妥当であると参加者が共通して判断した結果であると考えられる。一方、比較的低い評価得点であった講義・演習の内容は、4 日目「アセスメント・プランニング」のうち「演習 3-1　グループワークによる再ニーズ整理」2.7、「演習 3-1　ふりかえりと地域づくり・協議会」2.7、比較的低い評価得点であった講義・演習の資料は、２日目「ケアマネジメント技術演習」のうち「プランニング１」2.6、「モニタリング２」2.8 と４日目「アセスメント・プランニング」にうち「演習 3-1　グループワークによる再ニーズ整理」2.7 であった。現行の初任者研修では標準的に使用していない様式を用いたアセスメント演習であったため、後述するインタビュー調査においても、様式その

ものへの疑問・質問や意見が多く見られており、参加者による新様式の知識・理解の不足が比較的低い評価につながったと考えられる。これらの質問・意見を踏まえて様式の修正を行うとともに、講義での説明をさらに工夫する必要があると考えられる。また、新様式については、現任研修等の機会を利用し、経験のある相談支援専門員に広く周知して相談支援の現場で積極的に新様式を活用したアセスメントを行うことで、理解を深めて定着を図る必要がある。

講義・演習名	講師		研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに〇を記入してください
共通講義 「研修体系と 初任者研修」	藤川	**研修前**	知識・技術がまったくない　概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい　支援があれば現場で実践することができる　自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる　関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術がまったくない　概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい　支援があれば現場で実践することができる　自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる　関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		《内容について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）

講義・演習名	講師		研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに〇を記入してください
演習1 ケアマネジメント技術演習	藤川 冨岡	**研修前**	知識・技術がまったくない　概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい　支援があれば現場で実践することができる　自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる　関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術がまったくない　概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい　支援があれば現場で実践することができる　自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる　関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる

アセスメント（1） 関係性構築とインテークアセスメント	藤川 冨岡	《内容について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）
アセスメント（2） 情報収集	藤川 冨岡	《内容について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）
アセスメント（3） ニーズ整理	藤川 冨岡	《内容について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）

研修を受講してお気付きの点や感想があればご記入ください

講義・演習名	講師		研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに〇を記入してください
ケアマネジメント技術演習	藤川 冨岡	**研修前**	知識・技術がまったくない　概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい　支援があれば現場で実践することができる　自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる　関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術がまったくない　概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい　支援があれば現場で実践することができる　自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる　関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる

プランニング（1） 自由な発想に基づくプランニング	藤川 冨岡	《内容について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）
プランニング（2） サービス等利用計画作成	藤川 冨岡	《内容について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）
プランニング（3） サービス担当者会議	藤川 冨岡	《内容について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）

モニタリング（1） 本人とのモニタリング	藤川 冨岡	《内容について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）
モニタリング（2） サービス担当者会議	藤川 冨岡	《内容について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）
演習のふりかえり	藤川 冨岡	《内容について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない　あまりよくない　よい　たいへんよい （自由にご記入ください）

研修を受講してお気付きの点や感想があればご記入ください

講義・演習名	講師		研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに〇を記入してください
アセスメント		**研修前**	知識・技術がまったくない ／ 概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい ／ 支援があれば現場で実践することができる ／ 自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる ／ 関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術がまったくない ／ 概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい ／ 支援があれば現場で実践することができる ／ 自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる ／ 関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる

演習2-1 課題研究 事例検討の体験 （アセスメント） （導入）	藤川	《内容について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）
演習2-1 課題研究 事例検討の体験 （アセスメント） （演習） 1事例	藤川 冨岡	《内容について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）
演習2-1 課題研究 事例検討の体験 （アセスメント） （演習） 2事例	藤川 冨岡 鈴木	《内容について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）

演習2-1 課題研究 事例検討の体験 （アセスメント） 演習ふりかえり	藤川	《内容について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）
演習2-2 課題研究２ ケースレビューの体験（再アセスメントとプランニング） 演習	藤川 冨岡 鈴木	《内容について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）

研修を受講してお気付きの点や感想があればご記入ください

講義・演習名	講師		研修前・研修後のそれぞれの時点で、もっともあなたに該当すると思うものに〇を記入してください
（再）アセスメント・プランニング		**研修前**	知識・技術がまったくない ／ 概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい ／ 支援があれば現場で実践することができる ／ 自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる ／ 関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる
		研修後	知識・技術がまったくない ／ 概念や考え方は知っているが現場で実践するのは難しい ／ 支援があれば現場で実践することができる ／ 自分で現場で実践でき、他の人にも説明できる ／ 関連知識や技術を総合的に使い、他の人にSVできる

演習3-1 課題研究 （再）アセスメント・プランニング演習 **グループワークによる再ニーズ整理**	藤川 冨岡 鈴木	《内容について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）
演習3-1 課題研究 （再）アセスメント・プランニング演習 **自由なアイディア出し**	藤川 冨岡	《内容について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）
演習3-1 課題研究 （再）アセスメント・プランニング演習 **サービス等利用計画作成**	藤川 冨岡 鈴木	《内容について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）

演習3-1 課題研究 （再）アセスメント・プランニング演習 **ふりかえりと地域づくり・協議会**	藤川	《内容について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）
演習4 **演習ふりかえり**	藤川 冨岡 鈴木	《内容について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）
演習5 **演習全体のふりかえり**	藤川 冨岡 鈴木	《内容について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）	《資料・教材・方法について》 よくない ／ あまりよくない ／ よい ／ たいへんよい （自由にご記入ください）

研修を受講してお気付きの点や感想があればご記入ください

資料１−３　モデル研修参加者・インタビュー調査結果・考察

分担研究者：森地　徹

１．目的

相談支援従事者初任者研修のモデル研修について、相談支援専門員を中心とする相談支援事業に対する専門的な知見を有する方々に体験していただき、その内容についての評価及び改善点についてのインタビュー調査を行うことを通して、研修内容の確定を図ることとした。

２．対象

埼玉と神奈川の相談支援専門員協会に所属あるいは関与する相談支援専門員等 17 名を対象とした。

３．方法

埼玉と神奈川の相談支援専門員協会ごとに体験したモデル研修の内容についてのフォーカスグループインタビューを実施した。その際、インタビューは研修の日程に沿って 4 日間に分けて行い、それぞれ研修終了後に実施した。なお、調査はそれぞれ 30 分をめどに実施した。その上で、インタビューデータを基に逐語録を作成し、それぞれの研修内容ごとの評価及び改善点について整理を行うこととした。

４．結果

（１）事前学習及び共通講義

事前学習として基礎知識・関連知識（障害者総合支援法及び障害福祉関連制度、各障害の特性について）の習得を図ることについて、共通講義として、オリエンテーション（獲得目標、プログラム概要、相談支援の目的、人材育成、職業教育）、相談支援概論（相談支援の目的、相談支援の基本的視点、相談援助技術）、障害者総合支援法及び児童福祉法の理念・現状とサービス提供プロセス、障害者総合支援法及び児童福祉法における相談支援（サービス提供）の基本、相談支援におけるケアマネジメント技法とそのプロセス、相談支援における地域への視点について扱うことについて、以下のような意見が出された。

【基本相談の必要性について】

・相談支援の基本があって、ケアマネジメント技法から、で、相談支援の地域への視点っていう・やっぱ基本相談が大事って、重視するっていう辺りが、どういう説明でなるのかなっていうのは、ちょっと気になるとこですけど

・やっぱり、この基本相談が重視されてるのは、すごくいいことだなと思うので

・基本相談支援とはって、定義付けが、やっぱり必要なんじゃないかなって。それがあって、

こういう視点、こういうポイント、ここがポイントだよっていうふうに伝えていかないと
・特定相談で、計画相談でも、必ず基本相談で、法律的にもセットであって、計画立てるのが、特定指定じゃないっていう、その辺の仕組みとか構造から

【ソーシャルワークの位置づけについて】
・最初に、ソーシャルワークとは何かみたいな、それがあって目的がある、だから、ちょっとこれ、逆転するっていうんですかね、項目の入れ替えではないんですけども、そういう形にしたほうがいいのかなっていうふうには、ちょっと感じた
・基礎知識、関連知識のところに、ソーシャルワークっていう言葉は出てこないので、入れてもらうっていう意見で、ここでまとめてもいいんじゃないですか
・相談援助技術ってなってるんですが、で、社会福祉援助技術のことは全部入ってますよってことであれば、これが、社会福祉援助技術のほうがいいのかなと

【その他講義に盛り込むべき内容について】
・権利擁護だけみたいなところがないので、その辺の理解の部分が、どうなんだろう、大丈夫なのかなっていうのは、ちょっと感じてるところです。
・アウトリーチについて、何ら触れられてないところが、やっぱりそれでいいんだろうかって
・アセスメントっても、やっぱり一般的なものと、このモデル事例のことを踏まえたときに、大事にしなきゃいけないところが、やっぱり具体的に出てくるといいなって思いました
・今日やった、その見立ての専門性、相談支援専門員の見立ての部分っていうのは、きちんと講義にも入れていただいて
・モニタリングっていうところが、演習で使われたとこの部分でしか出てこないんですけれども、ここの辺は、あんまり重要視はしなくていいのかなっていうところが、ちょっとありました

このように、特に共通講義について、基本相談の必要性に触れることが重要だということ、ソーシャルワークの位置づけを明示すべきこと、その他、権利擁護、アウトリーチ、アセスメント、モニタリングといった内容を講義内容に盛り込むべきことについて意見が出された。

（２）演習１日目

演習１日目として、インテーク・アセスメント（ロールプレイやモデル事例を基にした模擬面接等によるインテークと関係性構築、情報の収集と整理、本人像の把握とニーズの整理）を取り扱うことについて、以下のような意見が出された。

【相談支援過程について】
・、相談支援の基本っていうのは、やっぱり信頼関係だったりとかって、構築するための導入の部分で、このインテイクとか、面接技法だとかっていう話になってくると思うので、そこを前段として考えるの、もう基本でしょって考えるか、もうそこから始まりだって考えるかで、ちょっと、この研修内容変わってくるかなとは思ってるんで
・アセスメントっても、やっぱり一般的なものと、このモデル事例のことを踏まえたときに、大事にしなきゃいけないところが、やっぱり具体的に出てくるといいなって思いました
・支援者視点でのそのプランニングになって、それを実際にやってみました、で、終わりましたっていうところで終わってしまうと、ご本人の気持ちだったりとか希望が見えないまま終わって

【見立てについて】
・支援者として、何に引っ掛かって、何をチョイスすんのっていう話が、それが、見立てなんですよ。で、そのことが、ほんとに背景にどうなってんの。その人はほんとに思ってんの。もしくは、環境的に見たときに、どうなってんのって、これが見立てなわけでしょ
・本人が思ってることを、願っていることを、それに対して、僕らは、見立てをフル活用しながら、支援してくんだよっていう最後のまとめができれば、それはいいのかなっていうのは思ってますので

【ニーズ整理表について】
・ニーズ整理表のほうは、今度はもう、これ、見立ての話なので、とにかく、全体のご本人の状態を見たときから、相談支援専門員、どんな見立てするっていうところから入っちゃえばいい
・ニーズの整理表だ、ニーズの整理表については、使い方のガイダンスが必要

【演習のやり方について】
・演習のやり方について、どこまで、個人ワークでお願いをして、どこからをグループワークにするのかっていうことについては、整理が必要かもしれない

このように、演習１日目としてインテーク・アセスメントを取り扱うことについて、一連の相談支援過程を意識すること、見立てを重視すること、ニーズ整理票を活用すること、演習のやり方について意見が出された。

（３）演習２日目

演習２日目として、ゴール設定とプランニング（支援計画の作成と地域資源へのアクセスと活用、他機関等との連携）、モニタリング・ターミネーション（利用者満足、新たなニーズ、ゴールの変化、他機関連携状況の確認、支援の終結、再アセスメント、再プランニング）、研修振り返りを行うことについて、以下のような意見が出された。

【資料の書式の検討について】

・本人のゴールがあって、着目したストレングス、アイデアっていうふうにして、ちょっと書式を検討いただけるといいなって思いました

・初任者であればあるほど、ツールの、ある程度、説明と使いやすさっていうのが、やっぱり影響がすごくあるので、現任研修よりも、やっぱり初任者研修のほうは、この書式の質っていうのは上げていっていただけるといいなって思いました

・本人のゴールを書く欄がどこかにないと、何に向けてのアイデアなのかなっていうのが、たぶん、きっと初任者だと、分かんなくなっちゃうので、それは、シートの中に書く欄があるといいかなというふうに思いました

・アセスメントのところの部分とかなり連動してくる部分なんで、やっぱりその共通の、何ていうんですかね、それは、ぱっと見で分かるような書式になってると。単純に、ここでは、いわゆるニーズ的なものが出てきていないですね。そこが見えるような書式になると、もうちょっと

・この書式だと書きづらかったなっていうのが正直な感想なので

・ニーズが明確に表れてない文章、ニーズはこれですよみたいなことの確認なしにプランのほうに入っていくっていう感じを受けましたので、そこが、明らかになったニーズはこれですみたいなことっていうのが、どこかで明確に確認される流れというのがあるといいかなというふうに思っていました

・アセスメント表のところの理解、解釈、仮説のところでは、こういうことが背景にあるんじゃないかみたいなところも一方では出てきて、それが合わさって、なんかニーズみたいなことがどうかのかみたいなことを含めてんですけど、その辺の構造といいますか

【振り返りの工夫について】

・振り返りのときに、何を振り返るのか、本人にちゃんと聞いていたかなとか、情報共有できていたかなっていう

・やっぱ初任者研修ならではのとか、相談支援ならではの振り返りのメニューをもう１個持ってかないと

・全体的に、最後にまとめる作業が出てくるなという印象

・振り返りのところで、私思ったのが、チェックシートみたいなものがあったほうが

【プログラムの可視化について】
・やっぱり視覚化して、流れをこうしないと、やっぱりついていけないっていえば、ついていけないですよね
・再アセスメントも、どこが再アセスメントなのかっていうのが、ちゃんと分かるように可視化されたほうがいいのかなっていうふうには思っていて

【モニタリング方法の検討について】
・モニタリング会議で自由度を広げてやっていくっていうところのほうが、段階としては、やる側としては、ハードルが下がるかなっていうふうな印象は受けました
・ここはひとつ、がつっとモニタリングで、ロールプレイっていうのが、重要性も含めて必要だと思います

【根拠を求めることについて】
・根拠は何、根拠は何っていうのを、相当、私も今日言ったけど、初任研だと、もっともっと言わないと。全然、根拠なしにアイデアばっかり出てくっていうことにはなるかなっていうのありますよね

【合理的配慮の明示について】
・総合的な援助の方針のところに、この、この人に対する合理的配慮が入ってこないと、なかなか、取り組んでいくのに難しいんじゃないかな

このように、演習２日目としてゴール設定とプランニング及びモニタリング・ターミネーションを行うことについて、諸々の資料の書式の検討、プログラムの振り返りの際の工夫、プログラムの可視化、モニタリング方法の検討、根拠を求めること、合理的配慮を明示することについて意見が出された。

（４）演習３日目
演習３日目として、アセスメント結果の検討について、以下のような意見が出された。

【教材の改善について】
・ニーズ整理表がどこでどう生かされるのかが、ちょっと不明確だったんですね
・初見で聞く側で見ると、５分で資料は読みきれないですよね
・事例概要の枠に、１行でも２行でもこうやって下のほうに選定理由と、相談人として困ってることって入ってたほうが、発表する側も困んないかなと
・このアセスメントのところのこの項目、この項目もちょっと細分化しすぎかなっていうの

も若干ちょっとあって
・なにせ発表が5分ぐらいの中で4項目、5項目ってなると、逆に言うとそれで読めるのも限界があるので
・やっぱり6事例を一気にやってくのは大変で
・ニーズ整理表のアセスメントの欄の捉え方とか、私が思うことのところの根拠が全部ちゃんと1次アセスメントとか、概要に入れ込めるかどうか

【マニュアルの必要性について】
・手順書に近いようなものが多分出来てこないと解消されない
・やり方のマニュアルは必要です
・マニュアル化のレベルをどれだけ精度を上げるかっていうのと
・手順の構造みたいなことも、初任の人だと、送られてきたものがどういうふうな進行になっていくのかっていうのが分かってたほうが

【事例の扱いについて】
・事例の概要と一次アセスと、これが連動していくっていうのがすごく必要なんだろうなとは思ってます
・事例提供者が捉えたものの、キチッとフォーカスされる、どんなふうに捉えたんですかっていうことがでてきた中で、皆さんの意見がもらえるっていうことなんかは結構大事なのかな
・支援者の見立てだけで計画に落とすわけにはいかないと思うんで、そこをどう連動させていくのかなっていうのは、ちょっと今の段階では僕は見えにくい感じがしますけど
・やってきた成果物はどこでそれが生かされるのかっていうところの機能がないんで、どう結びつけていけるかなという

このように、演習３日目として各種の教材の改善、進行上のマニュアルの必要性、演習で用いられる事例の扱いについて意見が出された。

（4）演習４日目・５日目
演習４日目・5日目として、再アセスメント結果と支援方針の報告と共有、再アセスメントからのプランニング演習、研修の振り返りについて、以下のような意見が出された。

【プログラムの内容の検討について】
・もっとさっき言ったようにばらっと自由な所で、なんでもいいから出してよっていうことで、出たことに関してこういうことだよね、ああいうことだよねってつなげってあげるような演習の方が、初任者には向いてんのかな

・セッション的には、自由なアイデア出すとかあのセッション入れてあるから、例えばここで言うところの地域の多様な資源へのアクセスと活用とかっていうのは、セッションそのものの狙いとして当然やるじゃない。それはそれでやれるんだけど、やっぱりやった後で振り返ってもいいのかなと思います
・今日やった演習の所では、今日皆さんの力を借りたので、だいぶインフォーマルな社会資源へのアクセスとか、その情報とか種類とかっていうのが、かなりのボリュームで出て来ましたけれども、初任だとすかすかになっちゃわないかなって思いながら進めてました
・初任なので、プランニングできるっていうところが最終的なとこだと思いますね。プラン立てられますっていう所。で、そこに立てるプロセスの中に重要なものがこういうのがある。そこがこういうのを参考にしましょう。こういうヒントがありますよだと、相当幅が広がっちゃうんでブレちゃうと思うんです
・やっぱり各セッションごとの単位の中での、その獲得目標とか狙いとか、基準みたいなものはあった方がいいのと、あと、それが全体の中の構成の中でどのようにつながってるのかとか連携してるのかって
・全体が見れる物、それから単位ごとで見れる物っていうものが、全体の設計図と個別の設計図が、そういうのがあるといいかな

【教材の書式の修正について】
・モニタリングで行ってきた具体的事実を、書ける場所がないっていうところで、書式としてそれをやるんであれば、具体的に記入できる書式が欲しいなというのと
・上がいまで、下が例えばモニタリングの表で、見直すのも確かにいいのかなって。そうすると変化が上下で見えるとか
・初任なので、この書式をきちんと使っていけばその流れが追えるとか、その目標が達成できるっていうような書式設定をしたほうが初任のほうはいいかなっていう感じがあったりとか
・再アセスメントであれば、その再アセスメントをどこに書くのかっていうような、これを埋めれば再アセスメントを課してできます、というような書式設定にした方が、初任のほうはいいかなと思う
・サービス等利用計画をまた１枚１枚みんなに書くっていうセッションじゃなくて、そこはもう１枚共有の物があって、その具体的な方策だけで差異が分かるような様式に落とした方が、分かりやすいかなっていう気はしました
・書式の書きやすさとか大きさみたいなのは、ちょっともう一回考えてみた方がいいかなみたいな気はします

【プログラムの進め方について】
・進め方について、やっぱりもう少し明確に決まってた方がいいなっていうのと
・一つ一つやる所のポイントみたいなものがないので、なかなかファシリにそれを伝えるのが難しいし、受講生にもそれを伝えるのが難しいなって
・やっぱりちゃんと伝えてやって、伝えてやってっていう繰り返しのプログラムを、もうちょっとちゃんと作っておかないと、どうも焦点が定まらない演習になりがちかなというふうに
・１個の演習の一人ひとりがきちっと終わってかないと、今回の演習３の１はほんとに成立しないかなっていう感じがあったので
・マニュアル的な進行表みたいのが、結構あった方がいいかなっていうのと
・やっぱり指導者マニュアルみたいな物がかなり重要と思います。そこにどこまで書くかっていうか、表現するかっていうのが結構重要だろうなと

【情報共有の必要性について】
・やっぱ背景の部分をきちっと外に、表に出していかないとプランニングの方にも多分結びついていかないので、何がほんとのニーズなのかみたいなことで、共有する部分がかなり重要なんだろうなというふうに改めて認識したところです

このように、演習４日目・５日目としてプログラム内容の検討、教材の書式の修正、プログラムの進め方、情報共有の必要性について意見が出された。

５．考察

以上の通り、相談支援従事者初任者研修のモデル研修内容について、実際にモデル研修を体験していただいた上で相談支援専門員等からその内容についての評価及び改善点についてのインタビュー調査を行ったが、その中で、それぞれの講義および演習に関して改善を図るべき講義および演習の内容、流れ、資料内容についての指摘がなされた。そのため、これらの指摘事項を踏まえた上で、相談支援従事者初任者研修としてふさわしいプログラムの提供が図られる必要があると考えられる。

資料１−４　モデル研修の振り返りおよび考察

研究協力者：藤川　雄一

１．エキスパートレビューに基づく考察

エキスパートレビューの結果に基づく初任者研修の振り返りおよび考察について、モデル研修の改善の視点から以下に箇条書きで示す。なお、昨年度同様、カリキュラムや内容に関する部分と企画運営に関する内容についてを分けて考察する。

〈カリキュラム・研修内容について〉

カリキュラムやシラバスそのものについての意見は少なく、それそのものは概ねモデル研修と同様の形で可能な印象を受けた。ただし、以下の３点ついては、時間を縮約して実施した結果、配慮が不十分となり混乱を招いた側面があった。実際の運用では特に留意しながら今後運営企画者に向けて伝達を行う必要があると考えられる。

① 本研究におけるカリキュラムの改訂は全面改定ではなく、従来研修の課題を解決する視点で行ったものである。企画運営者には、そのことを新旧対象の形で示したり、変更のポイントを丁寧に解説する必要があることがわかった。

② 講義については、より具体的な初任者研修での取り扱い内容を示し、それと本研修受講時には既習であることが望ましい内容、発展的内容を明確に整理して提示を行う。

③ 演習の入口で講義と連動するような導入講義を行う。

一方、演習の順序や題材の提示方法、演習の展開方法に関する意見がかなりみられた。その中で、主な箇所と改善策は以下のとおりである。

・今回、アセスメント票やニーズ整理票等について、様式（＝演習ツール）の改訂を行った。様式を改訂した場合、エキスパートであっても「どう書けばよいのか」「どう使えばよいのか」咀嚼するまでに時間がかかる様子が見られた。

→ 様式の活用法については、丁寧に教示する必要性がある。

→ 様式については（実習で）初任者自らが使いきれるかという意見もあり、今後さらに精査する必要がある。

・実習の地域資源の調査については、地域で基幹相談支援センター等がある程度受講生全体をフォローをする体制を構築しなければ、個別対応となり、相当の労力が必要になるのではないかとの意見も聞かれた。また、一度自分の地域のシートができてしまうと、それが出回り、コピー＆ペーストされるのではないかとの危惧も示された。

→ 地域の中で協議会等を活用し、実習への対応を協議する旨を示唆する必要がある。

・対象者像あるいは獲得目標として、いわゆる「計画相談」の従事者が「計画相談」ができるようになることをゴールとするのか、あるいは目指すべき方向性としている地域を基盤とするソーシャルワークの実践に向けた基礎固めをゴールとするのか、この間には乖離があるのではないかとの指摘が多く見られた。これは、研修の課題というよりは、実務や制度上の

課題であり、今後検討が必要と考えられる。地域を基盤とするソーシャルワークを「計画相談」にも求める場合、制度のありようや業務のありかたを見直す必要があると考えられる。

・「基本相談」や「初期相談」「総合相談」など、様々な用語が使われており、定義が明確でない。それがソーシャルワークとしての相談支援に対するわかりづらさを産む可能性がある。用語の定義を厳密に行う必要がある。
→ 定義については別途の研究が必要ではないか。

・面接技術や関係性の構築をどのように伝えるかについて課題がある。
→ 時間的な制約もあり、初任者研修でのその重要性を伝えるのが限界である。他の機会で学べる場が必要である。

・アウトリーチも重要なソーシャルワーカーの役割であるが、演習でどのように伝えればよいか検討する必要がある。
→ 演習で伝えることができるか検討するが、初任者研修では講義部分での取り扱いが限界ではないか。

・サービス等利用計画作成のプロセスに係るモニタリングとケアマネジメント本来のモニタリングとの間には乖離があり、どのように取り扱うか検討する必要がある。
→ 基本的には、ケアマネジメントとしてのモニタリングを取り扱う。乖離のある現状や計画相談のありかたについては講義でフォローを行う。

・気づきを可視化させるための工夫が必要ではないか。
→ 振り返り（チェック）シートを設ける必要がある。

・演習２は構造化されたグループスーパービジョンではなく構造化された事例検討と呼んだほうがよいのではないか。
→ 討議により気づきを得て、次回までの行動変容を促すという行為はスーパービジョンであると考えられる。ただし、事例検討とスーパービジョンの違いが明確に示されていないこともあり、両語併記がよい可能性も検討する。

・演習３は、受講生の実践例から１事例を選定することとなっているが、実際には困難（適当な実践例がないグループが出ることも想定されるのではないか）
→ この部分についてもモデル事例で展開する場合もあるとの示唆が必要である。

・演習講師（ファシリテーター）の質を一定担保する仕掛けが必要である。
→ 講師用指導指針を作成する。
→ 講師向け研修等の意図や方法を共有する場を設け、指針を活用する。

〈企画運営について〉

以下に、企画運営上の課題を整理する。大きくは、質の向上に伴う運営コストや演習講師に関する課題が多く挙げられた。ここでは、課題を挙げて整理する。

・本研修を効果的に実施するためには、定員規模を大規模にしすぎないよう留意する必要がある（今回の被験者は、政令指定都市等大都市をもつ人口規模の大きい県の相談支援専門員や行政職員であり、研修定員が相当に多い県であることも背景にあると考えられる。)。

・講義と演習を連動させる流れなので、同一年度に両方受講することが必要（現行では、講義と演習を別の年度に受講することも可能)。

・演習２について６名分の実践例をひとりの演習講師が扱うのはかなりの労力となる。

・演習講師（ファシリテーター）の役割が従来に較べて重くなっており、人数の確保・講師育成が重要である。

・日数が増え、グループ構成人数が減ることで、演習講師（ファシリテーター）の（のべ）数が増加することが見込まれる。予算上の措置も必要であり、早めに都道府県に伝達する必要がある。

・ＯＪＴと連動させるためには、地域で人材育成を担う者（基幹相談支援センターの主任相談支援専門員等）が研修の企画運営に仕組みとして携わることができることが必要である。

２．事前事後評価について

今回、研修効果について事前事後評価を実施した。結果としては、統計的に有意な効果は見られなかった。これは被験者属性の影響が大きいと考えられる。今回の被験者はを研修の企画運営者（最も熟練した階層の相談支援専門員）であり、初任者研修の内容は既習のものであるばかりか、むしろそれを教育する立場の者であった。そのため教育的効果については、大きな変化が見られなかったと考えられる。それを傍証するものとして、レビューにおいての意見は、自らが教育を受けた視点ではなく、多くが自分が教育するとしたらであるとか企画運営するとしたら、という視点で語られていた。そのことから、今回の考察には、事前事後評価ではなく、事後インタビューを重視することが妥当であると考えられる。

３．まとめ

（１）カリキュラム・シラバスについて

基本的には、モデル研修時に使用したものでよいことがわかった。細かい流れや用語法等の微調整が必要である。

（２）講義および演習の展開について

特に以下の点については、モデル研修からのブラッシュアップが必要である。

① モデル研修では、時間縮約のため、講義や教示を大幅に省略したが、実際には丁寧な説明が必要。

② 様式（演習ツール）については、枠組みはよいが、配置や用語法などの細かな修正が必要。また、振り返り（チェック）シートの導入が必要。

③ 演習１の場面設定については、より精査することが可能。

④ 演習２については、実習の実施体制についての示唆が伝達の際に必要。

⑤ ケアマネジメントプロセスとサービス等利用計画作成プロセスは完全に一致するとは言いがたいため、その調整が必要（サービス等利用計画については記入の視点についての精査、モニタリングについてはありかたをどう説明するかの整理が必要）。

また、カリキュラム改訂に際し、企画運営上の課題も想定され、そのことを企画運営者（各都道府県）に事前に提示することも必要であると考えられる。